

2019年阿部県政・県議選

報告書

(2019年3月15日～17日調査)

I	調査の設計	1
II	調査のポイント	3
III	調査の概要	4



一般社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆調査の目的

統一地方選前半の県議選は29日告示、4月7日投開票の日程で行われる。今回は定数1減の57人、選挙区が26から23に変わって初めての県議選となる。

昨年夏に3選を果たした阿部守一知事は、「創造性」「持続可能性」「共生」を重要な視点として、総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン2.0」2年目の県政に臨む。

4月で幕を閉じる「平成」後は、長野県の地域創生をどう実現していくかが問われる時代でもある。この時代の節目に、県政の両輪である知事と県議の役割や課題について、県民の意識を探る。

◆調査の設計

▽調査対象	県内に住む18歳以上の有権者男女800人
▽抽出方法	県内を東北中南の4地区に分け、さらに10代（18歳・19歳）～70歳以上の7つの年代層・性に分割し“県下の有権者の縮図”となるように人数を比例配分して、各市・各郡の対象者数を設定。
▽調査方法	個別電話聞き取り・RDD（ランダム・デジット・ダイヤリング）法で実施。コンピューターで無作為に発生させてかける電話調査法で、電話帳に番号を載せていない人も調査できる。無作為に発生させた番号のうち、設定した年代・性の人を選び、目標の800人に達するまで抽出して聞き取りを行った。
▽調査地点	19市9町6村
▽調査時期	2019年3月15日～17日
▽有効回答	809人（男性 381人 女性 428人）

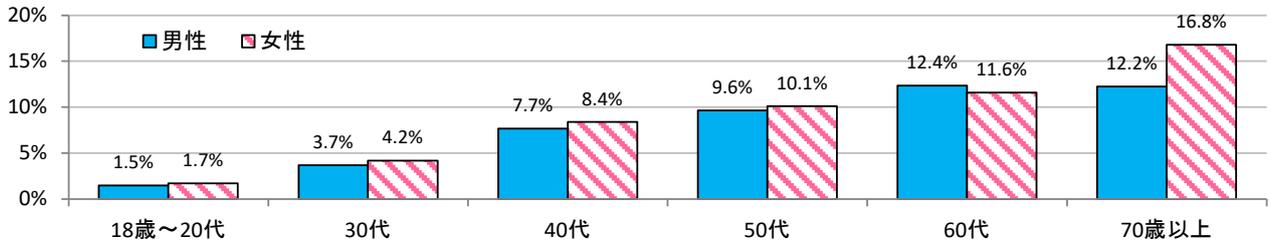
<注>

- ①報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。
- ②見出し、文中のパーセント数字は原則として小数点以下を四捨五入したが、全体を計算するにあたって必要な場合は小数点第1位まで表記した。

◆サンプルの内訳

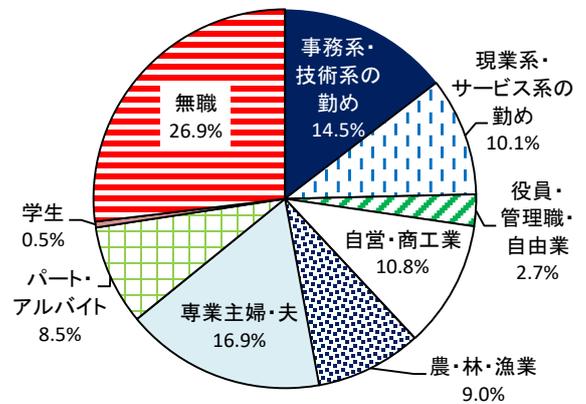
【性別と年代】

	合計	18歳～20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	809	26	64	130	160	194	235
	100.0%	3.2%	7.9%	16.1%	19.8%	24.0%	29.0%
男性	381	12	30	62	78	100	99
	47.1%	1.5%	3.7%	7.7%	9.6%	12.4%	12.2%
女性	428	14	34	68	82	94	136
	52.9%	1.7%	4.2%	8.4%	10.1%	11.6%	16.8%



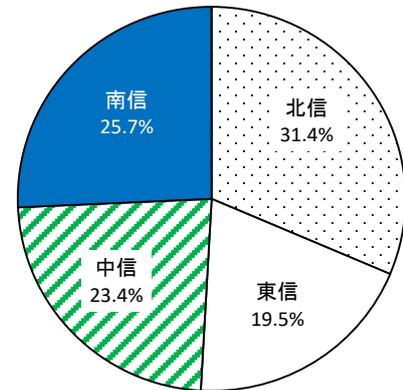
【職業】

事務系・技術系の勤め	117	14.5%
現業系・サービス系の勤め	82	10.1%
役員・管理職・自由業	22	2.7%
自営・商工業	87	10.8%
農・林・漁業	73	9.0%
専業主婦・夫	137	16.9%
パート・アルバイト	69	8.5%
学生	4	0.5%
無職	218	26.9%
その他	-	-



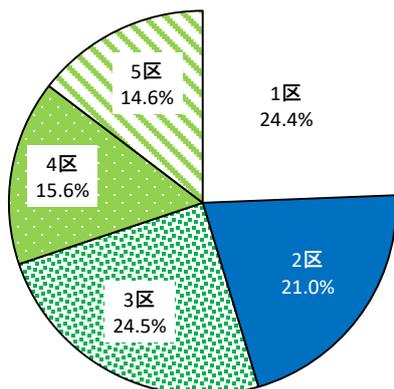
【地域】

北信	254	31.4%
東信	158	19.5%
中信	189	23.4%
南信	208	25.7%



【選挙区】

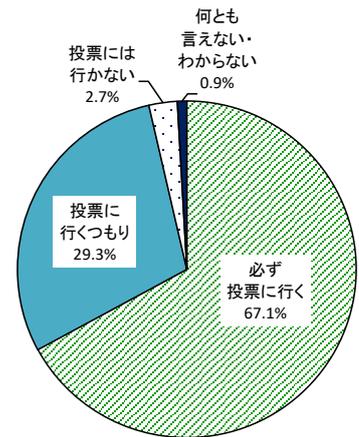
1区	197	24.4%
2区	170	21.0%
3区	198	24.5%
4区	126	15.6%
5区	118	14.6%



II 調査のポイント

◆ 県議選投票に前向き、9割超

4月7日投開票の県議選で、選挙戦になる見通しの選挙区有権者は「必ず投票に行く」67%と「投票に行くつもり」29%を合わせ、投票に前向きな人が96%に上る。前回2015年の県議選投票率は48.92%で戦後最低を記録している。定数1削減と選挙区が一部変わった今回は、投票率低下傾向に歯止めがかかるか注目される。

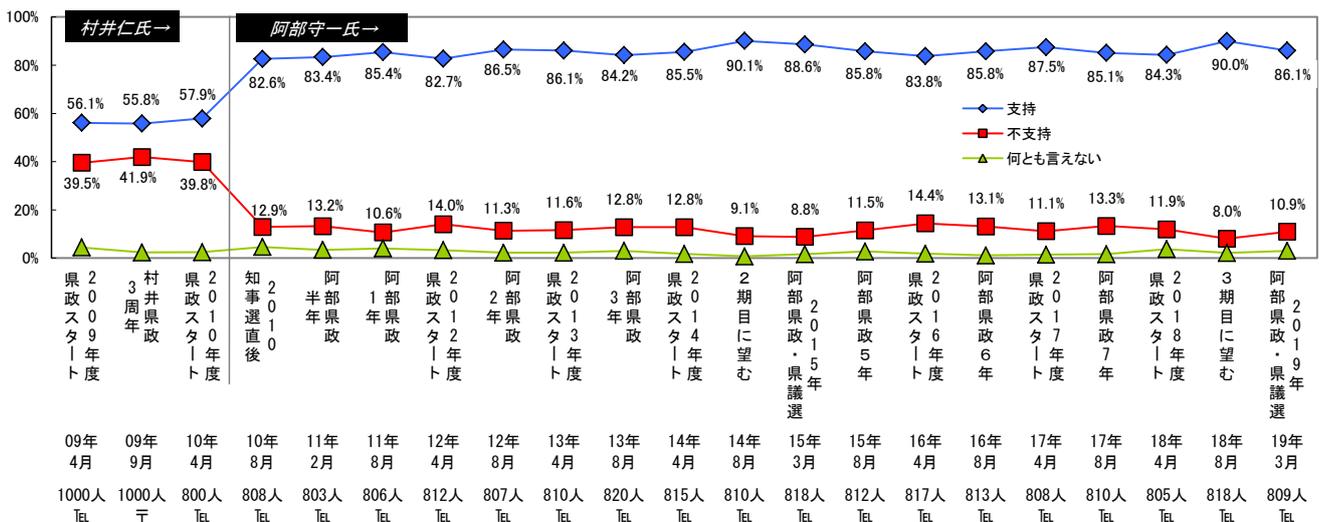


◆ 阿部知事の支持率は86%

阿部知事の支持率は全体で86.1%、昨年8月の知事3選時に比べ約4ポイントの微減だが80%を超える高水準を維持している。

また次期副知事に女性を選任しなかったことについて「女性副知事を選んでほしかった」が23%にとどまり、「女性、男性にこだわらず適材適所でよい」が66%を占めた。

知事・県政の評価の推移



	09年4月	09年9月	10年4月	10年8月	11年2月	11年8月	12年4月	12年8月	13年4月	13年8月	14年4月	14年8月	15年3月	15年8月	16年4月	16年8月	17年4月	17年8月	18年4月	18年8月	今回
支持する	15.9%	16.0%	26.1%	40.5%	39.7%	35.5%	27.5%	32.2%	35.7%	41.0%	37.8%	43.8%	46.8%	40.1%	41.1%	36.8%	42.0%	38.3%	35.4%	46.1%	42.0%
どちらかといえば支持する	40.2%	39.8%	31.8%	42.1%	43.7%	49.9%	55.2%	54.3%	50.4%	43.2%	47.7%	46.3%	41.8%	45.7%	42.7%	49.0%	45.5%	46.8%	48.9%	43.9%	44.1%
どちらかといえば支持しない	28.7%	28.7%	21.3%	8.4%	9.3%	7.9%	10.6%	8.2%	9.1%	8.9%	9.0%	6.4%	6.5%	7.9%	9.7%	9.3%	7.9%	8.1%	8.3%	4.9%	7.8%
支持しない	10.8%	13.2%	18.5%	4.5%	3.9%	2.7%	3.4%	3.1%	2.5%	3.9%	3.8%	2.7%	2.3%	3.6%	4.7%	3.8%	3.2%	5.2%	3.6%	3.1%	3.1%
なんともいえない・わからない	4.4%	2.3%	2.4%	4.6%	3.4%	4.0%	3.3%	2.2%	2.3%	3.0%	1.7%	0.7%	2.6%	2.7%	1.8%	1.1%	1.4%	1.6%	3.7%	2.1%	3.0%

(注) 知事の支持率は2001年の田中康夫県政時代から調査している。スペースの関係もあり、今回は10年前(村井仁県政)から図示した。阿部県政以前の最高支持率は田中知事の84.7%(02年9月)。

Ⅲ 調査の概要

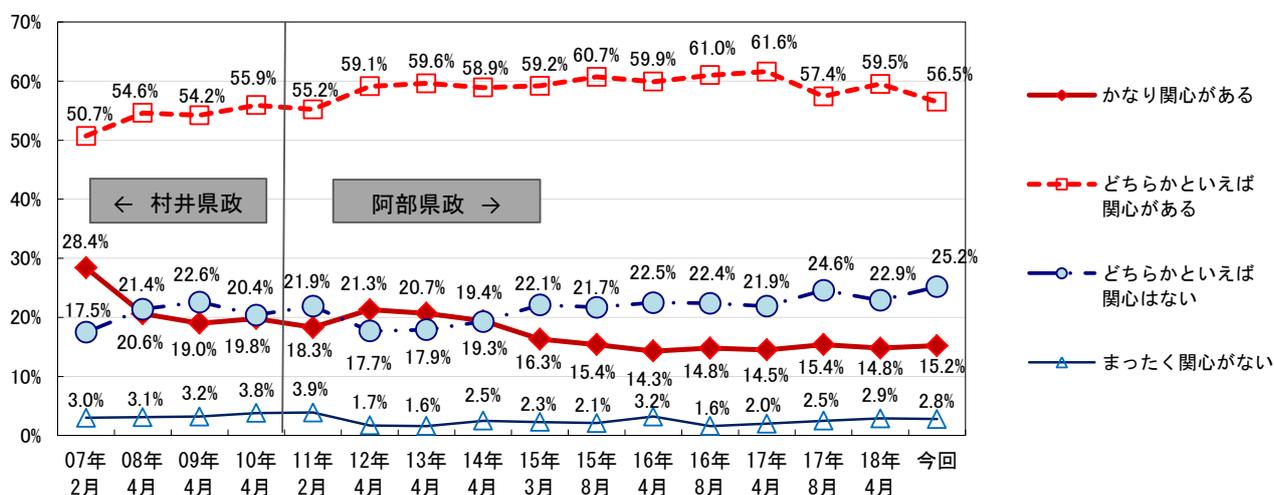
県政への関心

(問1)

◆「関心がある」72%

県政に「かなり関心がある」15%と「どちらかといえば関心がある」57%を合わせ72%で、昨年春の調査(「2018年度阿部県政スタート」)とほぼ同じ水準だった。「関心はない」は全体で28%。

関心は30代以下が50%台後半、40代以上が70%超と年代間で開きが見られる。職業別では自営・商工業(79%)、役員・管理職・自由業と農・林・漁業(77%)、専業主婦・夫(74%)が高い。



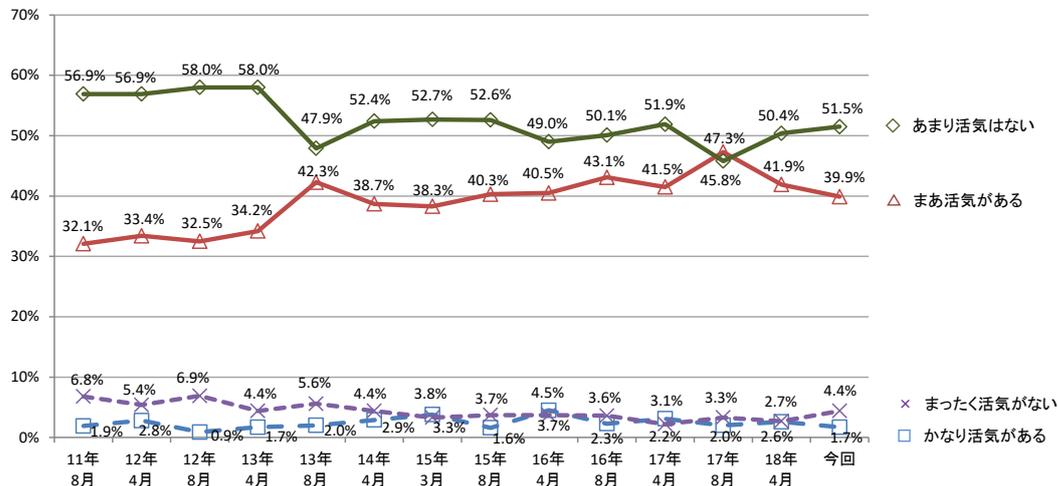
長野県経済や暮らし向きの現状

(問2)

◆「活気がない」今回も過半数

長野県の経済や県民の暮らし向きの現状について「活気がある」が全体で42%、「活気がない」は56%と、昨年春の調査に続いて停滞と感じている人が過半数になっている。

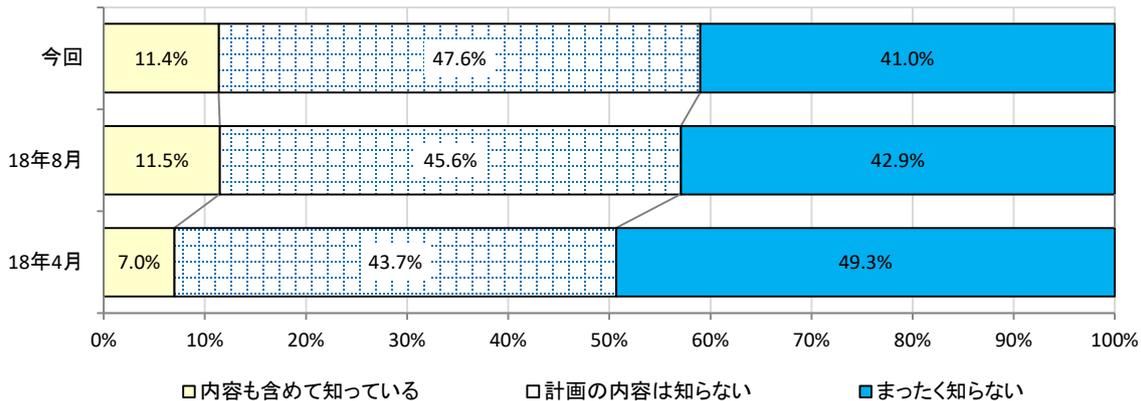
活気が「ある」が「ない」を上回っているのは事務系・技術系の勤め、役員・管理職・自由業だけで、年代や地域では全くなかった。



◆総合5か年計画、「まったく知らない」4割に微減

18年度からスタート、2年目を迎える長野県総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン2.0」は「内容も含めて知っている」11.4%、「計画の内容は知らない」47.6%、「まったく知らない」41.0%で昨年夏の調査（「阿部知事3期目に望む」）とあまり変わらない。ただ1年前は「まったく知らない」が49.3%だったので、認知度はやや上がっている。

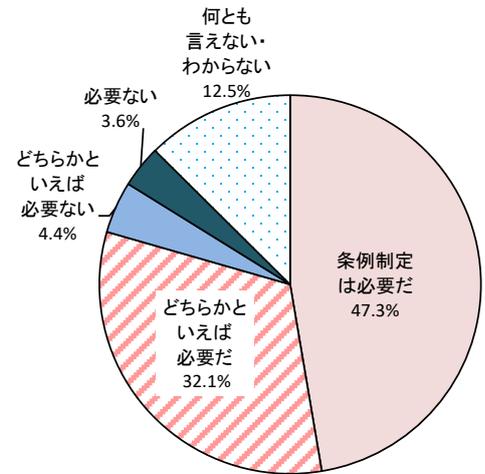
「まったく知らない」が18歳から30代までは、昨年夏と同じく5割を超えている。



◆自転車条例、「必要」が約8割

県が2月県会で制定した「自転車の安全で快適な利用に関する条例」（自転車条例）について、罰則規定はないものの損害賠償保険加入が10月から義務化されることの是非を尋ねた。

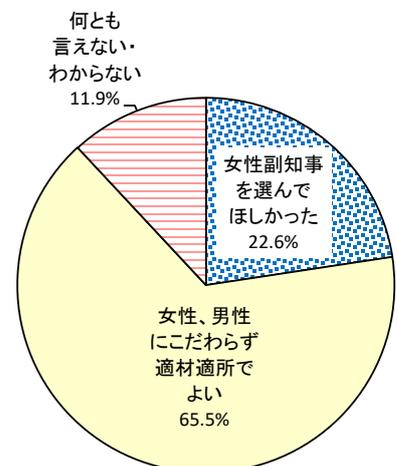
条例制定は「必要」と答えた人が全体で79%、「必要ない」は8%と少数だが、「何とも言えない・わからない」が13%いる。性別や年代、職業別でも大きな差異はなく、自転車条例制定には肯定的な姿勢だ。



◆女性副知事不在に、「適材適所でよい」66%

阿部知事が1期目に公約とした女性副知事を、次期は選任せず4月からは8年ぶりに不在となる。この人事について「女性副知事を選んでほしかった」23%、「女性、男性にこだわらず適材適所でよい」が66%と、知事の決定を肯定する回答が大勢を占めた。

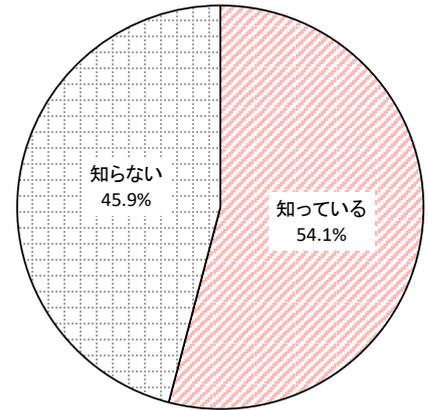
女性も「女性を選んでほしかった」は22%にとどまり、要望が高いのは共産党支持者の48%だった。



◆信州花フェスタの開催、「知っている」54%

魅力あるまちづくりへ県が力を入れている花と緑の祭典「信州花フェスタ 2019」（第36回全国都市緑化信州フェア）は、4月25日から6月16日まで松本平広域公園をメイン会場に中信地区で開かれる。この長野県で初めて開催の「信州花フェスタ」を「知っている」は全県で54%、会場の中信は64%で他地域よりも高い。

しかし「知らない」が18歳～30代や東信・南信は過半数と、年代や地域によって周知に開きがある。



◆都会からの移住、3人に2人がお勧め

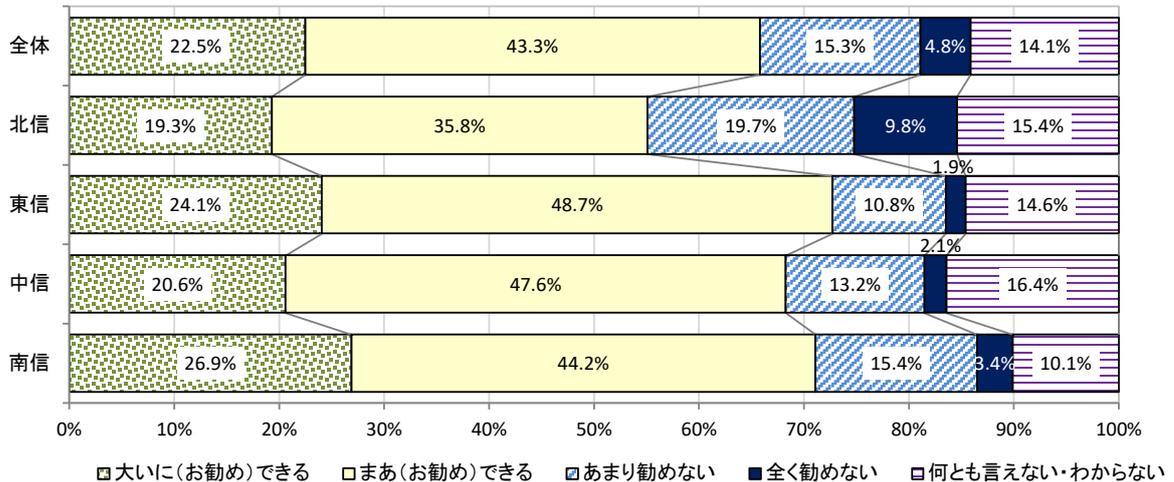
地方への移住を支援する認定NPO法人「ふるさと回帰支援センター」（東京）が2月発表した18年の移住希望地域ランキングで、長野県が2年連続1位となった。そこで実際に自分が今住んでいる地域を、移住地として都会住民に勧められるか聞いた。

「大いにできる」23%、「まあできる」43%を合わせ66%に上り、多数が移住希望に応えられる地域と見ている。

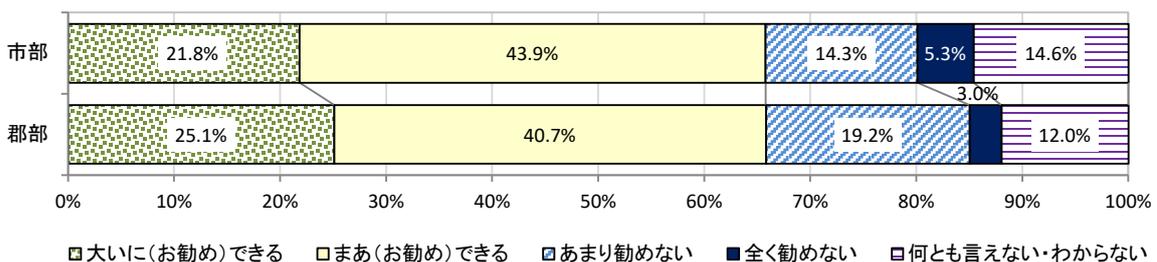
地域別では東信（73%）、南信（71%）、中信（68%）が高く北信（55%）がやや低めとなっている。また市部と郡部の比較ではあまり差異はないものの、「大いにできる」は郡部（25%）が3ポイント余高い。

県は新年度「信州暮らし推進課」を設置し移住、交流の促進に取り組む予定だ。

◆地域別では



◆市郡別では

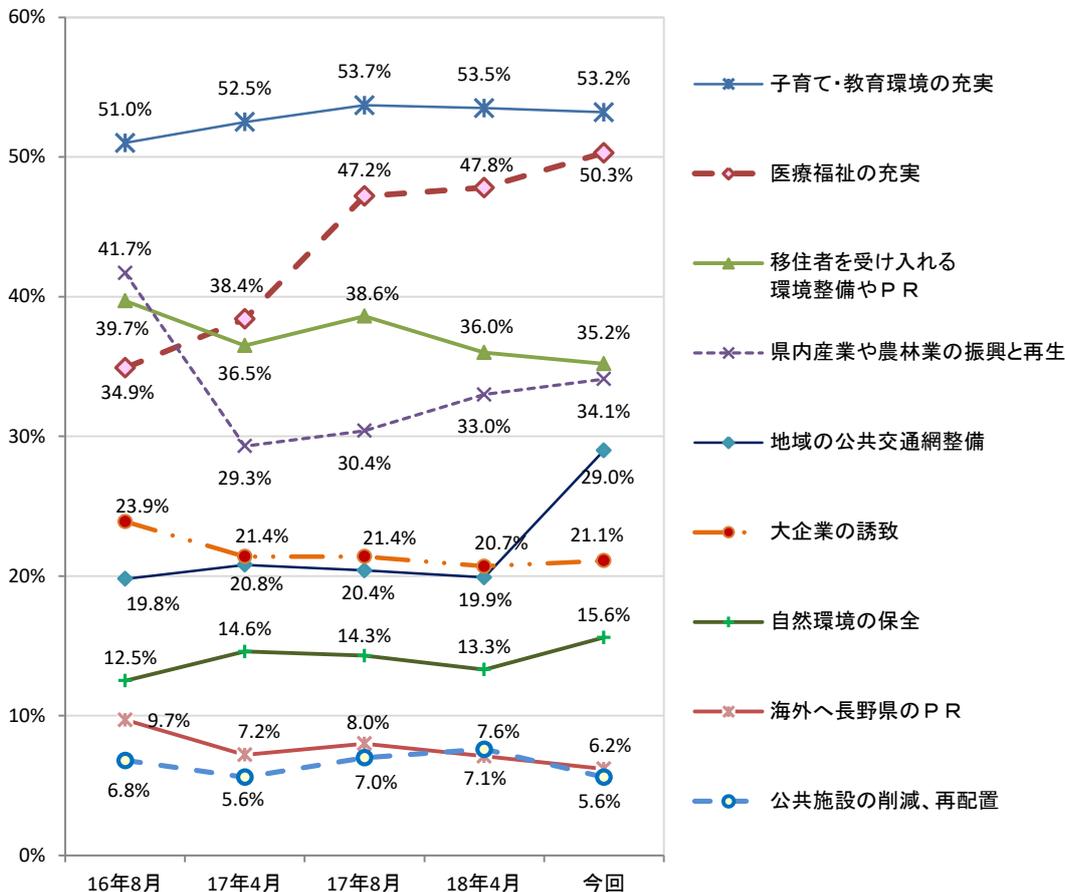
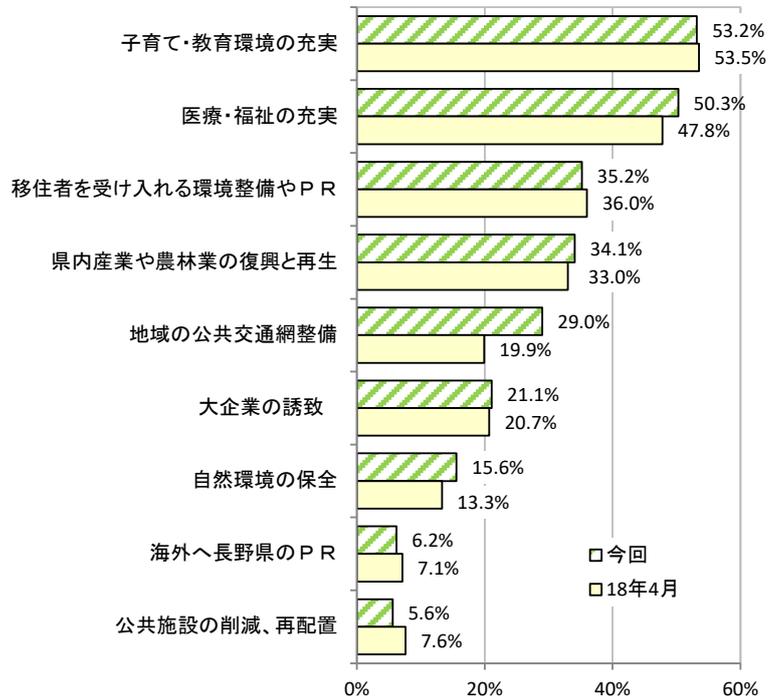


◆「子育て・教育環境の充実」「医療福祉の充実」……

人口減少社会において長野県に必要な施策（3つ以内）を県政調査で続けて聞いている。今回もトップは「子育て・教育環境の充実」53%で、特に30代(67%)と40代(62%)が高い。

2番目の「医療・福祉の充実」50%は女性(56%)、50代(59%)が多く挙げている。次いで「移住者を受け入れる環境整備やPR」35%で18歳～20代と南信(42%)が高めだ。この上位3項目は前回と変わらない。

「地域の公共交通網整備」は29%で全体の5番目だが、18歳～20代(46%)は2番目に挙げている。



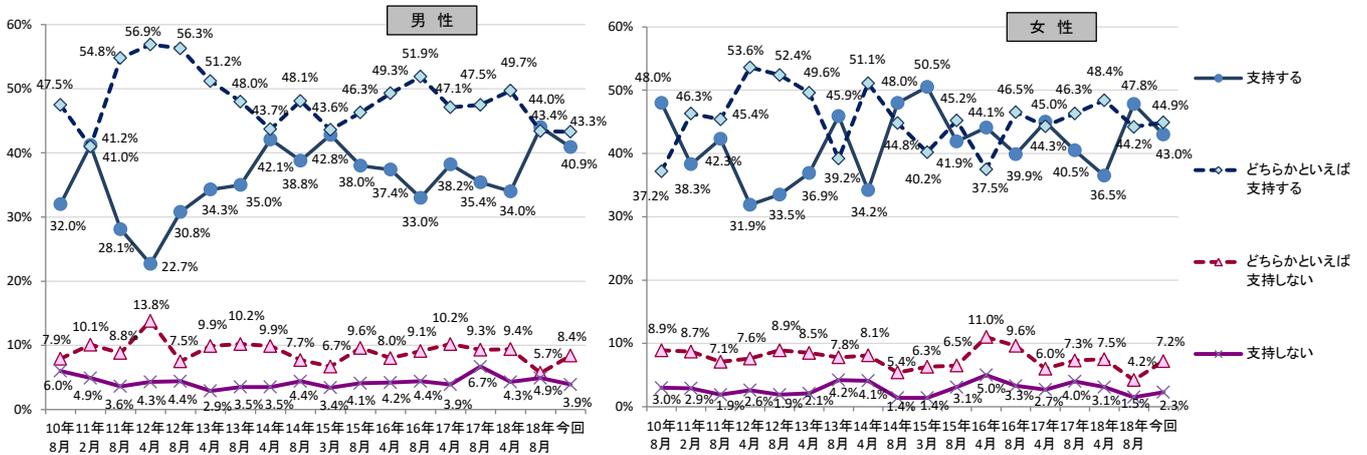
◆全年代とも8割超

阿部知事の支持率は「支持する」42.0%と「どちらかといえば支持する」44.1%を合わせ86.1%、昨年夏の3選直後の調査より3.9ポイント減だが、2010年の知事就任時から8割超の高水準が続いている(3ページのグラフ、表)。

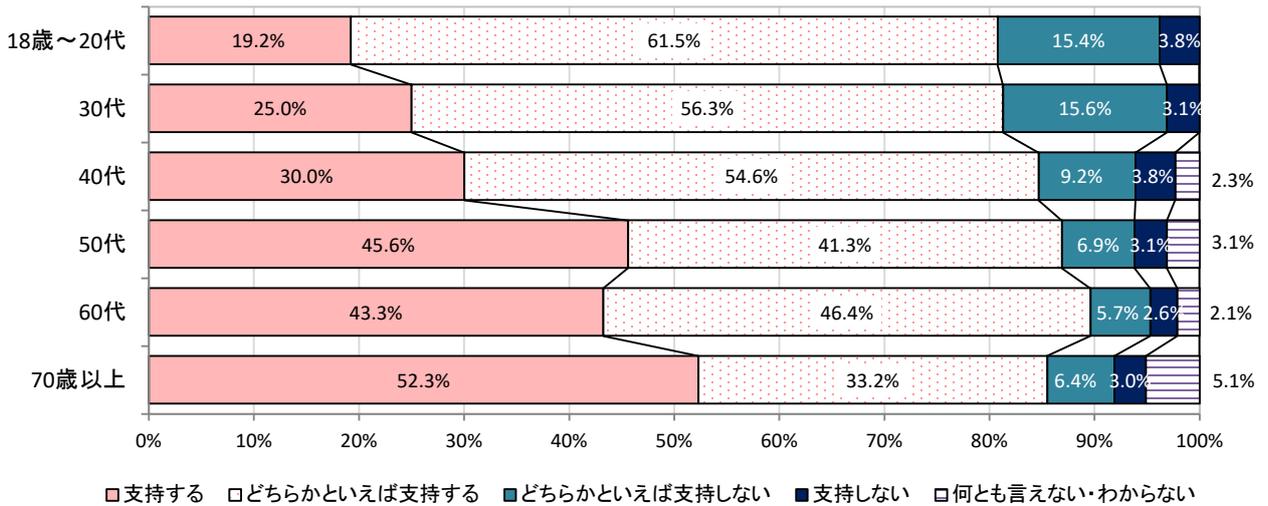
全体では全年代ともに80%以上だが内訳を見ると、積極的な「支持する」は40代までは30%以下、50代からは40%以上と年代による支持の強弱に違いがある。

地域別でも東北中南信とも80%を超えている。支持政党別でも全て支持が不支持を上回る。

不支持は全体で10.9%、ただ18歳~30代は19%前後と他の年代に比べ高く、農・林・漁業が20.5%と職業別で唯一2割を超えている。



◆年代別では



県議選の投票行動

(問6)

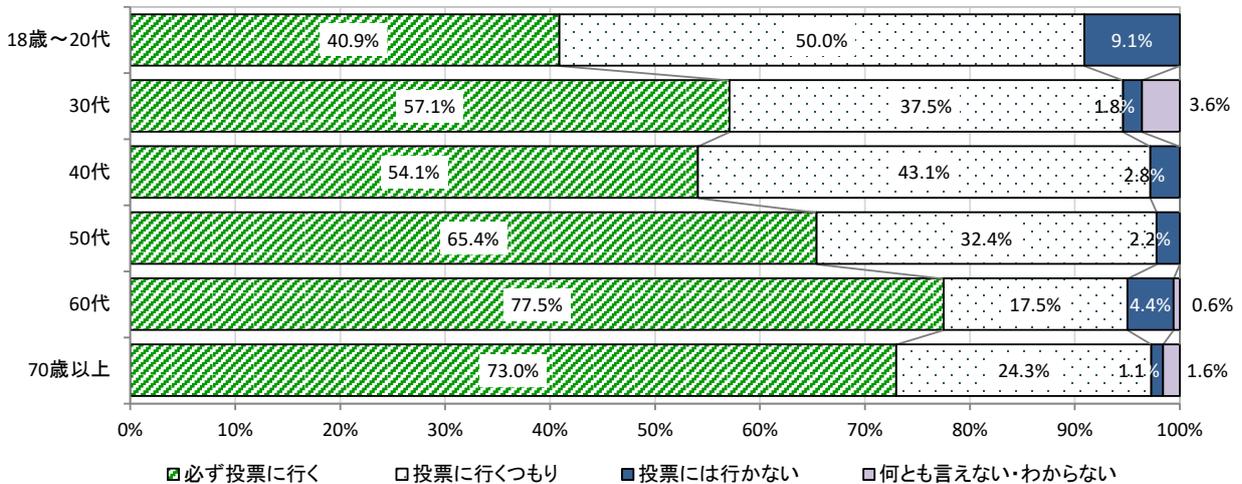
◆「必ず投票に行く」67%

29日告示、4月7日投開票の県議選にあたって今考えている投票行動を、調査時点で選挙戦の見通しだった13選挙区の有権者668人に聞いた。「必ず投票に行く」67%、「投票に行くつもり」29%、「投票には行かない」3%と大多数が投票に前向きだ。

「必ず投票に行く」が5割未満は18歳～20代(41%)のみ、高年齢層が高い傾向で60代以上は7割を超えている。

前回15年は初めて50%を割る48.92%だった県議選投票率、「必ず投票に行く」が実際の行動につながるかどうか、地方自治を考える上でも期待を抱かせる数字である。

◆年代別では



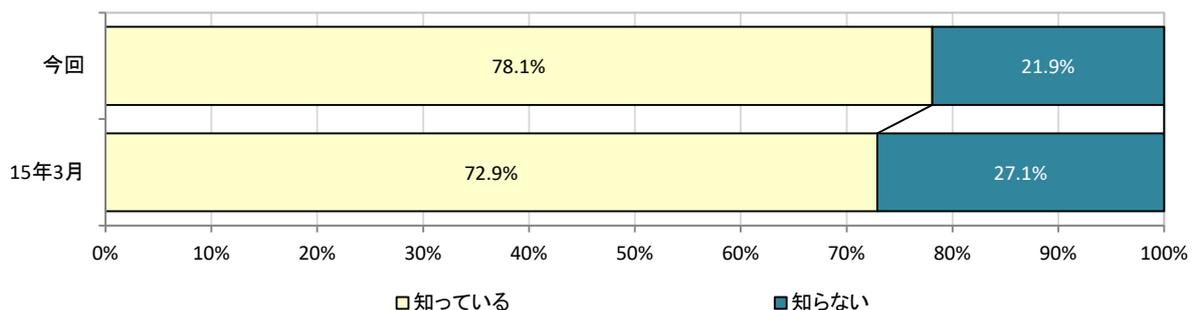
住んでいる選挙区から選出の県議

(問7)

◆「知っている」78%、4年前より5ポイント増

住んでいる選挙区から選出されている県会議員を「知っている」が78%、4年前の調査からは5ポイント増えた。「知っている」は高年齢層ほど高い傾向があり、18歳～20代が50%に対し50代以上は80%を超えている。職業別でも農・林・漁業と役員・管理職・自由業は90%を超える高さ。

地域では東信と南信が80%超に対し、北信と中信は70%台で多少差異がある。



県議選の女性候補者数

(問8)

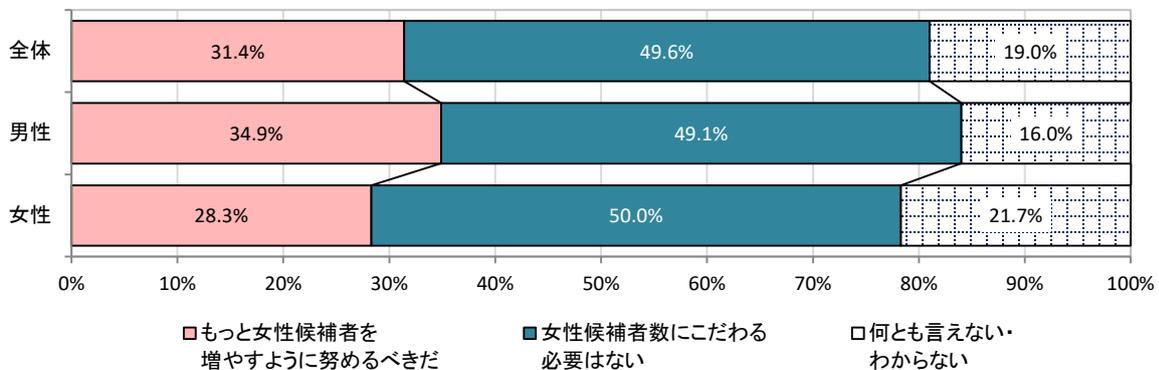
◆半数が「こだわる必要はない」

昨年施行された「政治分野の男女共同参画推進法」は、政党に候補者数をできるだけ男女均等にするよう求めている。この法施行後初の県議選にあたって、女性候補者数をどうすべきか尋ねた。

「もっと女性候補者を増やすように努めるべきだ」が31%にとどまり、「女性候補者数にこだわる必要はない」が半数の50%だった。

「もっと女性候補者を増やすように努めるべきだ」は女性が28%、男性の35%より低い。18歳～30代の若い年代も2割に達しない。主な支持政党別で5割を超えているのは共産党と立憲民主党だけだった。

現在の女性県議は5人、定数58の8.6%。かつて長野県は2007年の県議選で女性が11人当選し定数の19.0%を記録、都道府県会の女性議員比率全国トップになったこともある。



県議会の役割

(問9)

◆「県民のパイプ役」が半数

阿部県政に対して期待する県議会の役割は「県行政や知事と県民のパイプ役」が半数の51%、「県行政や知事への政策の提言役」25%、「県行政や知事のチェック役」は13%だった。

昨年夏の調査に比べて「パイプ役」が約11ポイント増、「チェック役」が15ポイント近く減少した。

「パイプ役」は女性(59%)、地域では東信(58%)、南信(55%)で期待する割合が高い。

